



# 笹中だより

伊丹市立笹原中学校 学校通信  
第 8 号 令和2年11月12日  
編集責任者 校長 菰口太志

## 令和2年度 笹原中学校 【学力向上プラン】 ～分析にもとづく「改善」が重要!～

今年度（令和2年度）の笹原中学校【学力向上プラン】ができあがりしましたので、お知らせします。今年度は、コロナの影響で、3年生対象の「全国学力・学習状況調査」が実施されませんでした。授業の中で取り入れ、結果を分析しました。また、1学期の終わりに、生徒のみなさんに「授業評価アンケート」をしてもらい、その結果も分析しました。

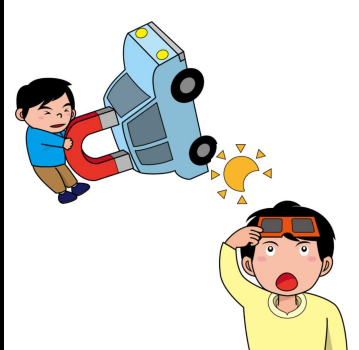


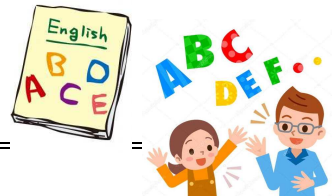
これらの分析にもとづき、今後の授業改善に向けた取組をまとめたものが【学力向上プラン】（5教科）になっています。

ご覧いただきまして、何かご意見等がございましたら、笹原中学校まで、ご連絡どうぞよろしく願います。

### 【令和2年度 学力向上の方針】

- ①学力調査・実力テスト・授業評価アンケートの分析にもとづく学習指導の充実、社会とのつながりや必要感のある課題設定、本質的な問い・しかけなどの場づくりを意識した授業改善を行う。毎授業での本時のねらいと振り返りの質をあげる。
- ②チーム学習や教え合い学習など指導形態のさらなる工夫・充実（意図的なペア・グループ編成と目的意識の明確な対話学習）、「笹トレ」の手法を各教科に取り入れる。
- ③考えたくなる課題設定、考えが深まる発問の工夫・しかけ（授業における意図的な場づくり）を考える。
- ④ICT機器の利活用推進と設備の充実（タブレットのフル活用、全教科を通じた振り返りのフォーマットづくり）を図る。
- ⑤授業のユニバーサルデザイン化推進の継続（視角・聴覚・体感）。
- ⑥2・3年生数学での習熟度別学習の実施。
- ⑦全学年英語での同室内複数指導（週2時間）の実施。
- ⑧数学異学年教え合い学習「笹トレ」（水曜6校時30分間）による「自己有用感の向上」「主体性・学習意欲の向上」「学力定着」。
- ⑨土曜学習の充実（9月から月2回程度、全13回実施）。
- ⑩「サクセスシート」（授業の振り返りシート）の一層の充実と主体的家庭学習への連動（「みんなの学習クラブ」の活用）。
- ⑪英検・漢検・数検等の検定取得の推奨。
- ⑫学校図書館の活用と読書量の増加。
- ⑬笹手帳や笹中校区3校合同生活点検週間チェックシートの活用による生活習慣（朝食・学習時間等）の改善。
- ⑭コミュニティ・スクールとして、地域・家庭との連携強化、発展。

## 学校全体の方針にもとづき、以下のような改善に5教科で取り組みます!

	1年	2年	3年
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習した内容と、どのようなことが身の回りの生活の中で結びついているのかを具体例を示して意識させる</li> <li>身の回りの事を題材にして日常生活の疑問を解き明かせるような手立てをする。</li> <li>知識の定着や、拳手をしない生徒の定着具合を把握するためにも単元テストの回数をふやす。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問や発表の仕方に改善の余地がある。授業プリントに「考えてみよう」として自由記述欄を多く設け、授業中にタイマーで時間を測りながら考え、発表する機会を増やす。これにより、思考・表現する機会を増やし、作業的な授業にならないようにする。</li> <li>授業の振り返りとしてサクセスシートを新しく配り、単元の方向性・全体の把握が簡単にできるようにする</li> <li>単元のオーヴァービューとしてモニターで生徒に提示する。具体的には、電子黒板のスライドに、今どの単元の何章でどのような内容を勉強しているのか簡単にわかるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業内で行う課題などについて、各自がしっかりと考える時間を確保し、手の止まっている生徒へは丁寧に支援していく。</li> <li>自分自身の理解をより深めるために、考えを発表する場も積極的につくっていく</li> <li>2、3人の少人数からはじめ最終的にはクラス全体の前でも発言ができる環境をつくり生徒間での意見の交換などにつなげる。</li> <li>グループ内、クラス内での対話により、一人一人の学ぶ意欲を高め、積極的に授業に参加できるようにする</li> </ul> 
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の中で、生徒各自に実際の生活で活用できるような状況を設定した上で、本時のターゲットセンテンスを用いた自己表現文を作成させ、それを発表させる機会を設定する。</li> <li>授業中にペアで会話をしたり、グループで課題に取り組んだりする活動を取り入れ学習内容の定着をはかる</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業アンケートの結果、振り返り活動に課題がある。授業では、ウォームアップに時間を割いており、振り返りの時間が少なくなっている。</li> <li>前時やその単元で学習した内容を振り返るウォームアップ活動を工夫する。</li> <li>場面設定を明確にしたペアワークでの会話練習、リスニング、小テストを行う。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語席を工夫し、生徒同士の教え合い活動を円滑に進める。</li> <li>学習の定着を図るために、前時学習した内容を復習するためのペア活動を導入時に取り入れる。</li> <li>場面や状況設定にこだわりいつどのように学習する語彙や表現を活用するのか具体的に示す。</li> <li>単元テストでは、各単元で学習したことが確認できるように工夫した問題作成に取り組む。</li> </ul>

（ウラへ続く）